

株主メモ	
事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日、7月31日(中間配当を行う場合)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL 0120-094-777(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告によりホームページ( <a href="https://www.artner.co.jp/">https://www.artner.co.jp/</a> ) に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない 事由によって電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 『IRメール配信』サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた方に「投資家情報(IR)」の更新、決算、ニュースリリース、その他重要事項の最新情報を、Eメールにて配信いたします(無料)。

下記URLまたはQRコードからWebサイトにアクセスしてご登録ください。

<https://www.artner.co.jp/ir/other/mail/>



↑QRコードから  
アクセス

### 当社のIR活動が表彰を受けました!

日興アイ・アール株式会社

2022年度全上場企業  
ホームページ充実度ランキング

- 総合ランキング「最優秀サイト」
- 業種別ランキング「優秀サイト」



株式会社ブロードバンドセキュリティ

Gomez IRサイト  
ランキング2022

- 総合ランキング「優秀企業」  
「金賞」(11位)
- 業種別ランキング  
(サービス業1位)



## 株式会社 アルトナー

東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F

大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-18 住友中之島ビル2F

Webサイト/投資家情報(IR)のご紹介

<https://www.artner.co.jp/>

アルトナー 検索



▲トップページ



▲投資家情報(IR)(トップページ)▶投資家情報(IR)

エンジニアインタビュー等  
動画ならではの当社情報を配信中!



▲<https://www.youtube.com/> より

アルトナー公式 検索

UD FONT

森の町内会  
間伐に寄与する紙  
[www.mori-cho.org](http://www.mori-cho.org)



# 62 | 2Q | IR

## 株式会社 アルトナー

証券コード: 2163

### 第62期 IRレポート(中間)

2023年2月1日~2023年7月31日

特集: 社内公募制度を活用して  
キャリアアップを実現したエンジニア

# Make Value

Engineer Support Company

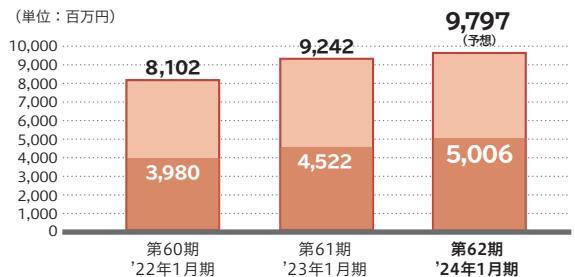


※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。  
また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

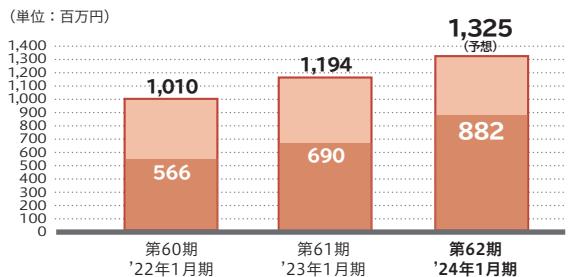
## 第62期 第2四半期 業績ハイライト

■ 通期 ■ 第2四半期累計期間

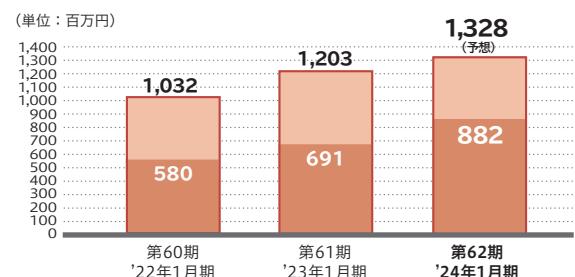
### 売上高 5,006百万円 10.7%増



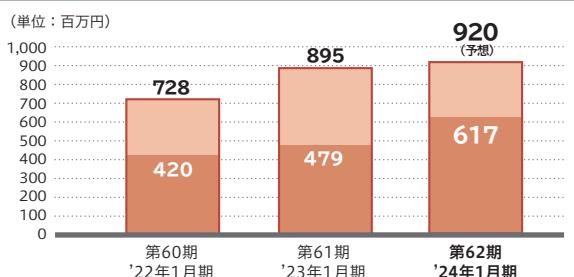
### 営業利益 882百万円 27.7%増



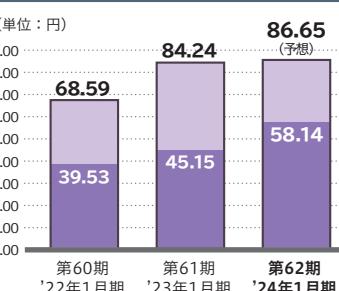
### 経常利益 882百万円 27.6%増



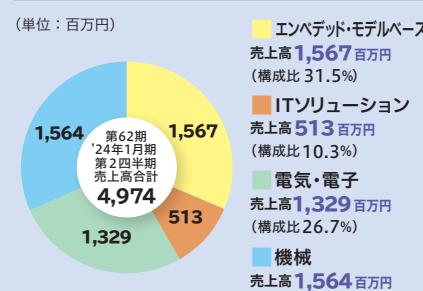
### 四半期(当期)純利益 617百万円 28.8%増



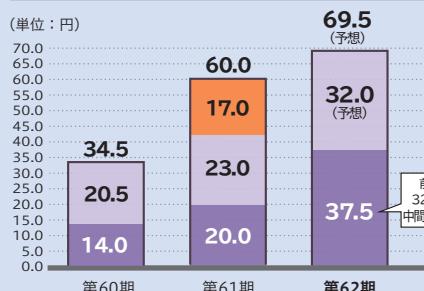
### 1株当たり当期純利益



### 第62期 第2四半期 分野別売上\*



### 配当金



ROE(自己資本当期純利益率)他 経営指標に関する詳細は ▶アルトナーサイトTOP ▶投資家情報(IR) ▶業績・財務情報 ▶主な経営指標を参照

## Message from Our President and CEO



顧客企業の旺盛な開発意欲が継続。  
下期以降も当社への技術者要請に  
積極的に対応してまいります。

第62期(2024年1月期)第2四半期累計期間の市場環境・業績概要、  
第62期(2024年1月期)の業績予想(通期)の進捗状況、  
上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況、  
中期経営計画(2023年1月期~2025年1月期)の進捗状況について、  
ご説明させていただきます。

代表取締役社長

関口 相三

### 第62期(2024年1月期)第2四半期累計期間の市場環境

#### アフターコロナの需要拡大に伴い、自動車業界、半導体業界からの旺盛な技術者要請が継続。

アフターコロナの需要拡大に伴い、自動車関連メーカー並びに半導体製造装置関連メーカーにおいて旺盛な開発意欲が継続しており、当社への技術者要請が継続いたしました。2050年実現に向けたカーボンニュートラルへの取り組みや、CASEをはじめ自動車の未来を担う技術開発の推進があり、その中核を担うソフトウェアの開発がスピードアップしている状況です。

### 第62期(2024年1月期)第2四半期累計期間の業績概要

#### 新卒技術者の初配属単価が上昇し、収益性が向上。稼働人員、技術者単価が前年同期を上回り、好業績に寄与。

業種別の売上高において輸送用機器、電気機器、精密機

器、情報・通信の構成比が高まり、技術分野では顧客企業から要請の高いソフトウェア技術者の構成比が41.8%に上昇しました。顧客企業のニーズが強いため、技術者が希少価値化の傾向にあり、その結果、新卒技術者の初配属単価が上昇し、収益性の向上にもつながりました。新卒技術者の配属も計画より前倒しで推移いたしました。従いまして、稼働人員、技術者単価が前年同期を上回り、好業績に寄与しております。

これらを踏まえ、売上高は5,006百万円(前年同期比10.7%増)、営業利益は882百万円(前年同期比27.7%増)、経常利益は882百万円(前年同期比27.6%増)、四半期純利益は617百万円(前期同期比28.8%増)となりました。



第62期(2024年1月期)の業績予想(通期)の進捗状況

**引き続き、下期においても、事業環境に大きな下振れリスクはないと予測。通期の業績予想に対して、順調に売上高、利益ともに進捗。**

ロシア・ウクライナ情勢など不安定な世界情勢ではありますが、当社を取り巻く事業環境、経済環境においては、引き続き下期においても大きな下振れリスクはないと予測しております。従いまして、顧客企業の開発スピードは今後さらに加速すると予測されますので、下期以降、来期に向けて技術者要請は高まっていくと考えております。

通期の業績予想に関しましては、技術者数、稼働率、技術者単価等の個々の前提条件の計画に対する進捗は、まばらな部分もありますが、補完し合い、全体的には売上高、利益ともに順調に進捗すると予測しております。

これらを踏まえ、第62期の通期業績の見通しは、売上高は9,797百万円(前期比6.0%増)、営業利益は1,325百万円(前期比11.0%増)、経常利益は1,328百万円(前期比10.4%増)、当期純利益は920百万円(前期比2.8%増)の増収・増益を見込んでおります。

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況

**東証プライム市場の上場維持基準適合に向け、目標より1年前倒しで流通株式時価総額100億円に到達。**

当社では、IR活動を通して、9期連続の増収・増益実績、10期連続の増収・増益期待という継続的な好業績、株主・投資家の皆様への還元方針をこれまで以上に積極的に市場に発信してまいりました。その結果、当社への理解度が向上し、現在の株価水準が形成されていると思います。当社は、中期経営計画の最終年度2025年1月期を、東証プライム市場の上場維持基準「流通株式時価総額100億円」の達成期限として目標設定しております。2023年9月7日時点において124億円となり、目標より1年前倒しで到達している状況です。(P6「東証プライム市場の上場維持基準達成への進捗」ご参照)

中期経営計画(2023年1月期~2025年1月期)の進捗状況

**「付加価値の高いエンジニア集団」というブランドイメージを意識し、経営数値目標の達成に向けて、採用活動に取り組む。**

中期経営計画で掲げている技術者数1,600人という経営数値目標に向けて、当社の強みである「技術者にとって魅力的な仕事と教育環境の提供」「アルトナー社内でキャリアアップを完結できるジョブ型雇用」「将来メーカー勤務も可能な

転職支援制度」を打ち出し、2024年4月入社の新卒採用220人、2024年1月期のキャリア採用180人を目標としてチャレンジしてまいります。

営業環境と採用環境はトレードオフの関係にあり、現在、営業環境は技術者ニーズが非常に旺盛ですが、それと相反して、採用環境が非常に激化しております。ただ、これまで積み上げてきた当社の特徴は「付加価値の高いエンジニア集団」にあり、お客様からもアルトナーのブランドイメージとして認知されております。このブランドイメージを毀損しないように、採用の質を意識して、採用活動に取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様へ

**配当性向50%を基本方針として、当期純利益の増益を継続し、前年割れのない、また、右肩上がりの配当額を還元していく。**

株主・投資家の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

配当に関する当社の基本方針について、この場で補足させていただきます。配当性向50%を基本方針とし、また、同時に安定した配当額を重視しております。当期純利益の増益を継続して、前年割れのない、また、右肩上がりの配当額を還元していく考え方を基本としております。

第62期の中間配当は当初の予想より**5.5円増配**し、37.5円となりました。期末配当は32.0円を予定し、年間配当は69.5円(前期比**9.5円増配**:配当性向**80.2%**)を予定しております。

今後とも、皆様の継続的なご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



市場のホットなテーマのアルトナーへの影響

**Q 昨今のインフレに伴う賃上げ圧力の影響**

**A** インフレに伴う賃上げ圧力により、顧客企業の社員の皆様の賃金がベースアップする確率は高く、それに伴い顧客企業との当社の技術者の契約単価交渉にもプラスに働くと考えております。

**Q 円安・円高の為替変動の影響**

**A** 顧客企業への為替の影響を注視しておりますが、当面、当社の事業環境への影響はないと判断しております。

**Q アフターコロナによる事業への影響**

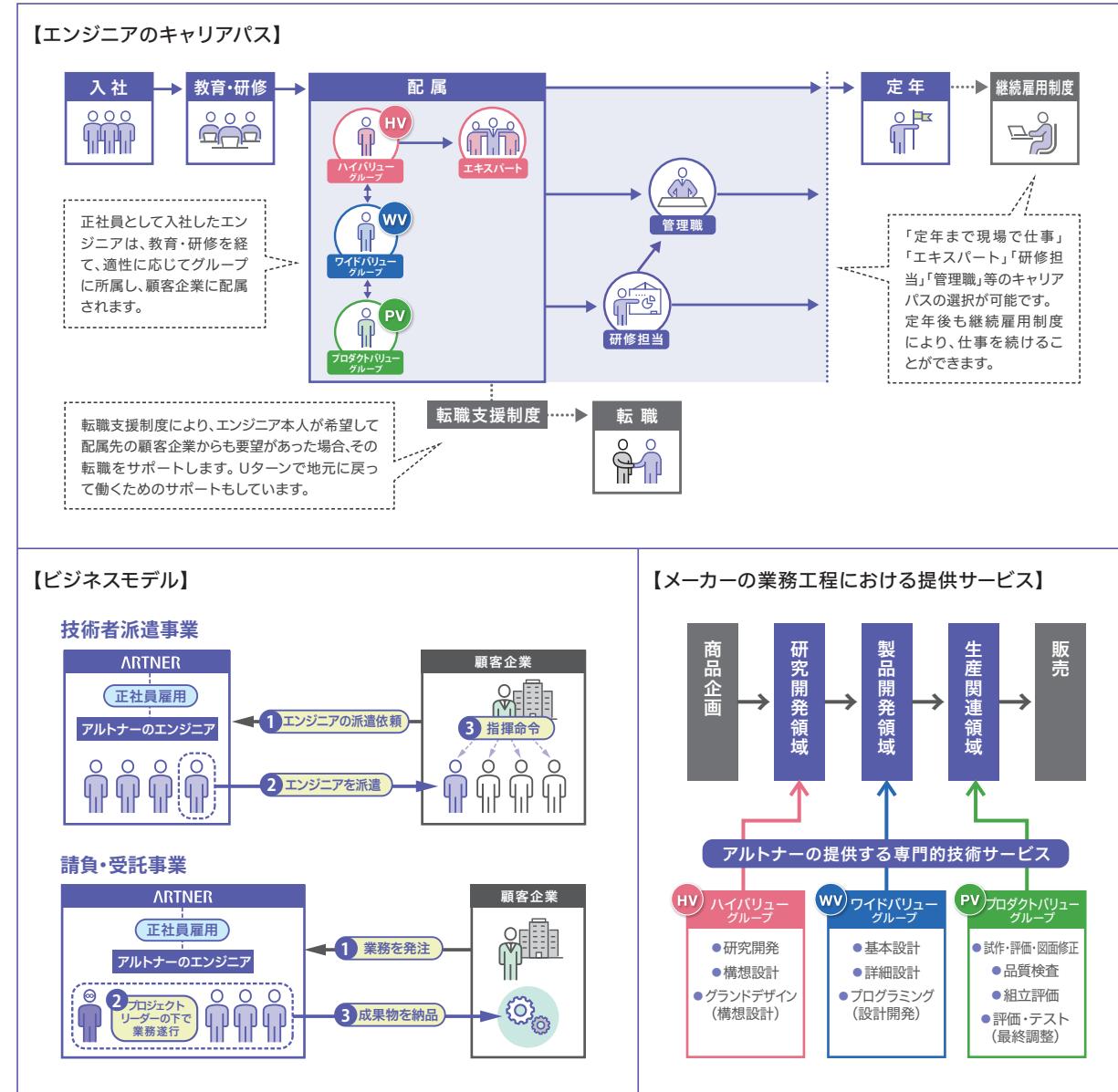
**A** 今後は在宅勤務、テレワークがなくなるのか、新たな就業スタイルとして定着するのか、顧客企業の動向を含めて注視しています。これが定着すると、採用において、学生・就業希望者の働く場所・地域に関する希望を実現しやすくなります。

**Q ChatGPTをはじめとする生成AI分野の事業への影響**

**A** 当社は、膨大な情報量进行处理する生成AIに不可欠な半導体の製造装置の開発に関わっています。今後、半導体の製造装置のニーズが高まることが予測され、当社のビジネスにとってプラスになると考えています。

## キャリアパス & ビジネスモデル

技術開発の強力なパートナーとして、多様なニーズにお応えいたします。



## 東証プライム市場の上場維持基準達成への進捗

IR活動を通して、9期連続の増収・増益実績、10期連続の増収・増益期待という継続的な好業績、還元方針をこれまで以上に積極的に市場に発信。

当社への理解度が向上し、現在の株価水準を形成。

東証プライム市場の上場維持基準「流通株式時価総額100億円」の達成期限として、当社は中期経営計画の最終年度2025年1月期を目標設定。

2023年9月7日時点において、124億円となり、目標より1年前倒して到達している状況。



### 統合報告書

当社の戦略、ガバナンス、実績、及び見通しが、どのように短・中・長期の価値創造を導くかをまとめた統合報告書を制作いたしました。

HOME ▶ サステナビリティ ▶ 統合報告書  
<https://www.artner.co.jp/ct-sustainability/annual-report/>



### 投資家情報(IR)サイト「よくあるご質問」

投資家の皆様から多くお問い合わせいただくご質問について、順次更新し、回答を掲載しております。

(例) 市場環境 (昨今のインフレに伴う賃金引上げ、円安、ChatGPT、半導体等)

HOME ▶ 投資家情報 (IR) ▶ その他 IR 情報 ▶ よくあるご質問  
<https://www.artner.co.jp/ir/other/faq>



特集

## 社内公募制度を活用して キャリアアップを実現したエンジニア

アルトナーには、キャリアアップのために所属するグループ間での異動が可能な社内公募制度があります。上流、中流、下流工程のプロジェクトが用意されており、所属を変更することでより上流へのキャリアアップを自社内で完結することができます。今回は社内公募制度を活用してキャリアアップを実現した、3名のエンジニアに話を聞きました。



**社内公募制度**  
社内公募制度により、「ハイバリューグループ」と「ワイドバリューグループ」の間で所属を変更すること、「ワイドバリューグループ」と「プロダクトバリューグループ」の間で所属を変更することが可能です。



インタビュー #001

ハイバリューグループ  
所属分野 ソフトウェア モデルベース K.A.  
2018年既卒・第二新卒入社  
学生時代の専攻科目 理工学域 電子情報学類

### スキルの高いメンバーと共に スキルアップ、高い報酬を 目指せる点に惹かれ、異動を実現。

**入社理由**  
エンジニアの意見を尊重していただける社風に惹かれてアルトナーに入社しました。エンジニア一人一人のキャリアや家庭の事情などを考慮してもらえる点も、働く上で安心でした。

**社内公募制度の利用**  
ハイバリューグループ(以下、HVG) 所属の同期社員から話を聞き、スキルアップのため、また、高い報酬を目指せるという点に惹かれて、ワイドバリューグループ(以下、WVG) からHVGに異動したいと考えるようになりました。異動に向けて、IPAの応用情報技術者試験の勉強を始めました。

**現在の業務とモチベーション**  
HVGへ異動したタイミングで、自動車部品メーカーから自動車メーカーに変わり、現在は半導体製造装置メーカーに配属されています。工場などで使用するロボットの作業を自動化するシステムの研究開発を行っています。以前の配属先で身に付けた製品を製造する上での安全面の考え方、論理的に物事を考える力を現在の配属先でも活かしています。スキルが高いHVGのメンバーに囲まれているので、自己研鑽をしやすい環境がモチベーション維持につながっています。期待されている分だけ責任も大きいです、それをやりがいと捉えています。

**今後の目標**  
新しい配属先で、戦力になることが目標でプライベートでも自己研鑽に励んでいます。



インタビュー #002

ハイバリューグループ  
所属分野 機械  
W.N.  
2018年既卒・第二新卒入社  
学生時代の専攻科目 理工学部 機能創造理工学科

### 尊敬する先輩社員が所属する ハイバリューグループに 異動することができて嬉しかった。

**入社理由**  
様々な配属先へ行って業務を行える『技術者派遣』という職業に興味を持ちました。『技術者派遣』企業の中でもアルトナーは社歴が長く、信頼できる安心感があったため入社しました。

**社内公募制度の利用**  
入社1年目に、配属先で同じグループにいらったアルトナーの先輩社員から社内公募制度について伺い、興味を持ちました。スキルアップのためにTOEICの点数が上がるように取り組みました。今後は機械設計技術者の資格も取得したいと考えています。新しい配属先では

尊敬する先輩社員と話せたり、様々なことを経験できているため、エンジニアとして成長していると感じています。報酬が上がったことも嬉しかったです。

**現在の業務とモチベーション**  
EVに関するプロジェクトで、次世代EVのバッテリー関連の研究開発、設計業務に携わっています。最先端のプロジェクトで自分の知らないことや新しいことに挑戦できることが、モチベーションにつながっています。

**今後の目標**  
EVの知識をもっと深く持ちたいと思います。業務に様々な部署が関わっているので、業務を推進していくためには、常にアンテナを張ることが必要だと考えています。色々な人とつながるように努力したいと思います。



インタビュー #003

ハイバリューグループ  
所属分野 機械  
M.T.  
2019年既卒・第二新卒入社  
学生時代の専攻科目 基礎工学部 材料工学科

### 経験を積んでスキルアップして いけば、より高度な業務を 任せてもらえる環境がある。

**入社理由**  
会社説明会でレベルの高い環境や仲間と仕事ができるHVGの存在を知ったことが決め手でした。同じ大学のOBの方々が、HVGに所属して結果を出していることを伺い、自分も同じ環境で仕事をしてみたいと思いました。

**社内公募制度の利用**  
入社後はWVGに所属して、ASSY部品や車についての知識を学んだり、TOEICのスコアアップに努め、経験を積みました。その後、社内公募制度を利用してHVGへ異動しました。

**現在の業務とモチベーション**  
大手自動車メーカーで、今後発売予定の電気自動車の高電圧ケーブル及び付随部品の設計開発をしています。高度なスキルがあるという前提で配属されているので責任を感じますが、携わっている製品が世界中で販売され、自分の思いを世界中の人々に感じてもらえるかもしれないというワクワク感がモチベーションになっています。アルトナーには、スキルアップをして結果を出せば、より高度な業務を任せてもらえる環境があると感じます。

**今後の目標**  
自分の扱う製品だけでなく、車に搭載される様々な部品についての知識を身に付け、車全体を把握して設計ができるエンジニアになりたいです。そのために知識の習得に努めています。

## 要約財務諸表

科 目	第61期 前事業年度 2023年1月31日	第62期 当第2四半期 会計期間 2023年7月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	5,161	5,470
固定資産	511	507
有形固定資産	80	78
無形固定資産	27	25
投資その他の資産	404	403
<b>資産合計</b>	<b>5,673</b>	<b>5,977</b> <small>ポイント①-A</small>
<b>負債の部</b>		
流動負債	953	1,049
固定負債	671	693
<b>負債合計</b>	<b>1,625</b>	<b>1,742</b> <small>ポイント①-B</small>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,042	4,234
資本金	238	238
資本剰余金	168	168
利益剰余金	3,636	3,828
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	5	0
その他有価証券評価差額金	5	0
<b>純資産合計</b>	<b>4,047</b>	<b>4,235</b> <small>ポイント①-C</small>
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,673</b>	<b>5,977</b>

### ポイント① 貸借対照表

- ① 総資産は、売掛金、現預金の増加により、前事業年度末に比べ304百万円増加。
- ② 負債は、未払金の減少があったものの、未払法人税等、預り金の増加により、前事業年度末に比べ117百万円増加。
- ③ 純資産は、利益剰余金の増加により、前事業年度末に比べ187百万円増加。

### ポイント② 損益計算書

- ④ 技術者派遣事業にて、技術者数が増加し、稼働率が高水準で推移したことにより、稼働人員が前年同期を上回る。新卒技術者の初配属単価上昇や、顧客企業との既存の技術者の単価交渉により、技術者単価が前年同期を上回る。これらの結果、売上高は前年同期比10.7%増の5,006百万円。
- ⑤ 利益面においては、スタッフの増員、採用広告等の採用投資を実施したことに加え、採用・営業活動の回復に伴い旅費交通費等が増加したことにより、販売管理費が増加。これらの結果、営業利益は前年同期比27.7%増の882百万円、経常利益は前年同期比27.6%増の882百万円、四半期純利益は前年同期比28.8%増の617百万円。

※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。  
また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

科 目	第61期 前第2四半期 累計期間 2022年2月1日から 2022年7月31日まで	第62期 当第2四半期 累計期間 2023年2月1日から 2023年7月31日まで
<b>売上高</b>	<b>4,522</b>	<b>5,006</b> <small>ポイント②-A</small>
売上原価	2,890	3,115
売上総利益	1,632	1,890
販売費及び一般管理費	941	1,008
<b>営業利益</b>	<b>690</b>	<b>882</b> <small>ポイント②-B</small>
営業外収益	1	1
営業外費用	0	0
<b>経常利益</b>	<b>691</b>	<b>882</b> <small>ポイント②-B</small>
特別利益	-	7
税引前四半期純利益	691	890
法人税、住民税及び事業税	225	278
法人税等調整額	△13	△5
<b>四半期純利益</b>	<b>479</b>	<b>617</b> <small>ポイント②-B</small>

### キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科 目	第61期 前第2四半期 累計期間 2022年2月1日から 2022年7月31日まで	第62期 当第2四半期 累計期間 2023年2月1日から 2023年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	401	477 <small>ポイント③-A</small>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21	1 <small>ポイント③-C</small>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△215	△422 <small>ポイント③-D</small>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	163	55 <small>ポイント③-A</small>
現金及び現金同等物の期首残高	3,554	3,975
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,718	4,031

### ポイント③ キャッシュ・フロー計算書

- ④ 当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ55百万円増加。
- ⑤ 営業活動CFは、売上債権の増加、法人税等の支払があったものの、税引前四半期純利益があったことにより、477百万円のプラス。
- ⑥ 投資活動CFは、無形固定資産の取得による支出があったものの、投資有価証券の売却による収入があったことにより、1百万円のプラス。
- ⑦ 財務活動CFは、配当金の支払により、422百万円のマイナス。

## 会社・株式情報

名称	株式会社アルトナー	研修拠点(LC)	東日本／西日本
設立	1962年9月18日(昭和37年9月18日)	事業内容	1)ソフトウェア 2)電気・電子 3)機械 上記分野の基礎研究、設計開発、及び開発技術等の周辺業務
代表者	代表取締役社長 関口 相三	社員数	1,381人
株式	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:2163)	許可番号	労働者派遣事業(派27-020513) 有料職業紹介事業(27-ユ-020355)
資本金	2億3,828万4,320円		
本社	東京／大阪		
事業拠点	横浜／大阪／宇都宮／名古屋		

### 役員一覧 (2023年7月31日現在)

代表取締役社長	関口 相三
取締役 役	張替 朋則
取締役 役	奥坂 一也
取締役 役	佐藤 宗
取締役 役	江上 洋二
取締役(常勤監査等委員)	野村 龍一郎
取締役(監査等委員)	寺村 泰彦
取締役(監査等委員)	森井 眞一郎

### 株式の状況 (2023年7月31日現在)

発行可能株式総数	36,000,000 株
発行済株式数	10,627,920 株
流通株式数	72,893単位
株主数	13,044人

### 大株主の状況 (2023年7月31日現在)

氏名または名称	所有株式数(株)	割合(%)※
株式会社関口興業社	2,126,000	20.00
アルトナー従業員持株会	935,848	8.80
大阪中小企業投資育成株式会社	480,000	4.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	373,200	3.51
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245,258	2.30
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OMO2.505002 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	180,000	1.69
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	167,559	1.57
張替 朋則	140,840	1.32
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	138,750	1.30
JPMorgan証券株式会社	135,696	1.27
計	4,923,151	46.33

※発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合

### 株式の分布状況 (2023年7月31日現在)

